

CRI 頭蓋リズム調整法とNMTニュートラル・モーション

Hippocrates (紀元前460～350)

CRI頭蓋リズム調整法について

その歴史は、医学を原始的な迷信や呪術から切り離し臨床と観察を重んじる科学へと導いたヒポクラテス(紀元前460～350)に始まる。「医学の父」といわれ、薬の使用も厳格に制限したといわれている。

体液のバランスが病気を引き起こすと唱えて、それを実践し、自然治癒(pyhsis)を重要視した治療を行ったことが記されている。



Andrew Taylor Still (1828～1917)

オステオパシーの創始者であり、医師でありながら我が子(5人?)を救えなかったことで、西洋医学への不信感と薬害について徹底した信念を持っていた。

自然治癒力を引き出すための手技医学についても、教本を与えることなく、1に解剖2に解剖と解剖を原点にし、た医学を展開した。

その姿勢に、多くの誹謗や中傷を受けたと伝えられている。1900年代に入ってから、弟子達によって薬の使用も一部許可されたようです。

William Garner Sutherland (1873～1954)

1899年、オステオパシー大学の学生だったサザーランドは、頭蓋を観察していたときに「側頭骨の表面が呼吸のために関節のように動く魚の鰓(えら)のような傾きをしている」という仮説を立て研究を始めた。彼はその仮説を裏付けるために、自分やクライアントの頭蓋を何度も触診し、心臓の拍動や呼吸リズムとは違う、全く独立した別のリズムで動いている頭蓋運動の基盤を見つけ出しました。この呼吸のような動きは、全身で触診できる固有のリズムの基盤として、『第一次呼吸(Primary Respiration)』と名付けられました。





Robert C. Fulford (1907～1997)

1949年～1950年：サザーランドD.O.と頭蓋オステオパシーの共同研究を行う。

オステオパシー、道教思想、エネルギー医学を追求した。病気もあり、アリゾナ州ツーソンに移り住むと、すぐに治療成果の噂を聞きつけた患者さん達によって、診療を再開する。

その噂を聞きつけた、健康医学、補完・代替医療のアンドルー・ワイル博士が訪問、フルフォードD.O.から多大な影響を受ける。

繊細な指の感覚と研ぎ澄まされた感性は、他の追随を許さないほどのものであり、真に神業です。

私は、この世に治療の神がいるとすれば、このロバート・フルフォードとローレンス・ジョーンズ両医師です。

少しでも、一歩でも近づきたいと思い願う毎日です。

Lawrence H. Jones (190?～1996)

世界的にも有名なDO(オステオパス)です。

日本では、手技医学というと接骨院の「柔道整復師」という国家資格や「整体」という民間資格ですが、欧米ではDO・DCが行なう治療法です。

欧米には、オステオパシーの病院もあり、DOが手術をして、24時間経つと各関節の拘縮を防ぐためにDOが施術を開始します。

ですから、退院の時は普通の生活ができるようになっているのです。残念ながら日本では、そこから辛いリハビリが延々と続くのが現状です。

特に、このカウンターストレインという手技医療は、世界的にも絶賛され1996年Drジョーンズ医師が亡くなられる1ヶ月前に行われたAAO(アメリカ・オステオパシー・アカデミー)の年次総会では、30分に渡るほどのスタンディングオベーションという前代未聞の表彰式だったといわれています。

現在のアメリカでも、MD(西洋医学医師)とDO(オステオパシー医師)の戦いやDC(カイロプラクティック医師)との熾烈な戦いがまだ続いているのです。



NMT (ニュートラル・モーション・テクニク)とは・・・

関節を動かし、弛緩状態(障害姿位)から中立位に患者さんに動かしてもらうという技法です。METや操体法に似たJMC独自の技法ですが、力が抜けない患者さんに効果を得ています。